梅兒譽美

四編

上

特
へ遠13
839
1

門へ遠13 特
號 839
卷 10

明治三六年十月十八日 購求

今は昔世の中男女の仲はかりがたきものなれば
あるとき一人の女子いとうつくしき有りけ
り何ゝ家の四男ありけるが頼もしく言葉を
尽くして懇ろに語らひけれども
過ぎにし方を思ひ出でて昨日とも今日とも分
かず一時減ぶんと思ひ侍りけれども男女の
翠帳紅閨の中に新枕をしそめし初の

亦〻後世のためにと契れるさまこのあさ程やう〻に成ぬるく
婚〻なれ聞きつるまゝ約束の男は母の上にとろへてを
嫁にと思ふ事とうの野もりのちかさとかきくさまあり給ん
こゝろあらば求れくいるらくまさる程なるたんむ〻
まさにあり〻き孟光とうの富人の娘あり位ある程の
夫陵伯春と云へる人志ゝ〻ふかくぶきて〻霸陵とよ
所ふ世をのがれ住さもうの〻程ども孟光
こゝろ〻しるもとまゝ彼知人行田をこの〻〻をと

刈ものこゝろ負ぐ〻〻ものこゝろ成人こゝやう程〻きこゝぶ
を形〻法〻も禮義を尊〻男は法〻てる仕の富貴
をとのへ〻ぶ誠をこゝて法〻へ〻こゝを嗟近世の娘こゝろ
この事をもてり得ぬ義理と道こゝふを知て美名を著
こゝろひ〻〻〻出世〻思ふ人で〻も妻をこゝのこゝろぎ
こゝろこゝろ一度業ゆこゝる元なこゝ〻〻ものこゝ世の
娘こゝ〻〻こゝぶ身こゝる法ぶ程をこゝ〻こゝる心法を
きこゝめでこゝる尊〻人といふ男分へ〻〻典侍直

書房文永堂上梓

春色梅兒與美第四輯全

本弐巻

天保四癸巳陽春發行之記

柳川重信畫圖

柳川重山畫圖

狂訓亭

萬永春名誌

隅田川
勝景
真寫
関口より
横ゝ之図

竹蝶吉
文亭主人
晋子
梅の於由

唐琴屋内
全盛此糸

○ 春ごとにまづ咲くものは梅ばかり　二代目十返舎一九

○ 酒の名は白梅よりまづ咲くも初まるつげなり　假名廼末成

○ 君様のおぼしめしは梅の花　と白ふ梅ぶ　松亭金水

○ 文好む名をめでたく梅ぶとて　三亭春馬

春色梅兒譽美卷の十

江戸　狂訓亭主人著

第十九回

さてもかの十七回決が由と諜吉を彼藤兵衛が音信を待小田巻
ときその人の噂も何やらきたりる風聽より心をつて
五四郎さんとかの人のお言葉の後とお聞きなさ
色米さんよ何ぞ海ねこと出来さのでぞぶらぶらと
く待うと猪武寄　イヤモシどうもとんだことさ子アノ

蔵さんハくるまの横木をかたで第一なんの福有人ハ殆ト使客者
お方ゆゑ世間も度く雖一人指さぞめも極とろろダ
今度ハ少〻ハ出ずの内の程度とろくも外でハ内の金ゆ
諸方附合ゲ度ようく却ど金ゲ際限も多く入さゆゑ
大分内祝ゲまろてこうこまづもも角も今日ろさ
しゲお寄ひまうもハ外じゃうの内の家防町のお河ろ家ア
さんの祝お祭ろの今の給金代ト外くお嬢人約ろ盛二姉
のお由と杉見合せもや浪ゲ娘きの先ゲ二番ド女

五郎八ハ山ハ笑　さそろの給金蔵　んゲ殊ゲ
紛失しくだろさんに渡ー字ろとろろの金蔵
さんが駆るとその光盗人ゲ逃入く字んで行ろトいろても
蔵さんハ揺いもろいろ　めそうゲその盗人の逃入さ
梁ハ蔵さんの奥紙袋中ろ入紙古の名ろの書物を
こゲく老女も寄ゲ分く渡ー入金蔵蔵さんゲまろをの
喚ゆ盗ろハ寄ろと推量ゆゑ紙入を紙古ハ表面ゆるる
ろの金ろろく丁度ゆ合ー入ゲバまんざろ蔵さんとも彩

あの
金ごとこーのことゆの捨ゆもう〜極へときのみう〜義さんと
お年ゆまうーとけごけとどモウ門くこふもうこゆと
てうんりやゆ仕ことが極へどでどお阿よ金銭マア半金ぐも
渡ーくく乱屋く門渡よ方ふのめごトいふわうふ表の
方墨八を寄を掛へ四郎さんそんうう加年の毒ごゲ
お代友さ夏へお阿さんをやりやモゼヨイ〜墨八を夏
どうう今月一日起ゆうふもあーちゆアふまれゆうア
こゆこんみとふ井友さんハ初んなさるゆこまうこわゲモシ

どうぞ閉くふもる仕ゆうハごぞいゆまいうてトさひゲふ
利義がお由ぐもみよりくる義ふ居ゆもうてこ
てやお蜂ハのとうう年ゆうゲ途方よふまてる女同士ウ
お蜂よりや友さんゲ其ゆ松かてハありもゆまハ極へ
どうーてそんみことのてゲ他の物紙とるうんぞとのうてハ
ザアモシ極へハ知ゆてくわるゲ紙へとのハ絶ゆあってお阿
ゆうさんの仏の底ゆも友さんゲコキすゆてくこそ知ろ
うとゆーハ思ひも考ようけまゆとうねゲ森相ぐとうゆてさ

金をつくしものを買ひ求めるに非もかまへど蔵さんをね
てゐる間に丈夫なうつくしの八拍子の強歌のみでうも仕てゐで
ざのきせんトぜのくお内五四郎ホ相続し紙の金ゆく
と云類その外をあつめ十六六ヒ品々後風呂しき
を濡たるにも濡せば五四郎「語る」「ヤレく」ちや
コレてハ蔵さんをおぢのまうもだりホすぐぢも仕
てゐ内家柳つと毎ごとに成そんなうこ七ッやうそ
マアざれと半金ごとをもをおを成をめハ

のの蔵さんハ一向知らぬ顔ハ一ッ出ぬ
ふとちまち見る代代物ようくマア教を書附ぬぐもみ
さいませんら由「イエナニ大事ハ御えくありまして」
ハ早く渡せうホその門蔵さんがお知らぬ
いさそうがのまへのお宅ハどちらぞ五四「エハイ」
さしハアノお阿なアさんのホ裏もおりまして
まとまさ昭和までよ代方へ参りまして「風呂敷脊屋」
出ける門口お嬢が方とこの〳〵来る丹次郎丈

四郎と家来曲り丹ハヤヤクしの方松ヶ浦来船所で逢て
マア下に居や五ハイ今少し　急用がト逃出さうとする
しハ此盗人めエふてくされ奴ごうねがお蔭で丹波屋ガ日
新銭ふける今の銭義留山さ多人引ずつく切ておそひ
ホ出さ宝の切系切まそハあまど金子の行方主人の
判を偽さ主家罪サア一所ようせもまとうまとまびあり
ふりちくふ五吉さとの門くもみ日ろこ日下ろ出りヤア
付わづり美えもあ人宝の金のと留山ハ

会御御ろう岐丹まくもく切さくあけまろうの銭ト
文出を又四郎組分丹波あらそふとろに思ハが丹
波屋銭引倒しこの金蔵ハエ何成するのご新ホ
仙合ね美出せぎサア天保屋さん急ぎ多人ト丹波屋
ご顔銭こびしくニッこうちあまして文出を二人
そまとりんるこりお蔭ハさ出禁お兄さん丹さんお姓
銭ハろうこいませんろどうまろこのでごいまはト注変
すこびお内も門へ出る向ふの縄手屋今文出さ五四

卿と彼墨八が拾ひ取ほんで投出をそ子義の茂兵衛

○そもく五四郎とめるふえ丹次ぐうが出をそ子ひきる
出をそ郎の書張松右衛門と少悪漢うて丹次をか沢
前の出を郎唐琴屋の鬼兵衛と名を丹次を
ぶ〜して主の出をみとう〜忽ちその家を押つぶ〜
借金を外を丹次郎を付留ふ郎の拝領を
掘出郎へ妻その金を取立近〜酒をとめけ幸に
きびうく〜〜く隠をまくり上げ方

江書頭とありてみ〜〜ゞ茂兵衛はけりどと上を伝五の
山方へ兵衛ふ高賣用うく妙ひ〜ゞ羽衣の出来
く山方のそのと同じ〜旅を時〜も山を四郎ふ
お嫁ゞて取ゞ〜〜くを〜〜金を駆け寄防町
のお河ゞ方を掛合をまくお嫁ゞとお由ゞとを殺
らぞのくこをまをくをくふせんとうせ〜〜ようをとゞ
茂兵衛も如状の多ゞ取うみて同くのををの主
ぜさ〜〜ふ他を知〜〜ぜば五四郎拘留の悪会

きぞ〜主人茂兵衛のさびの強さ有つく
三十日八ツ半りぐさ〜と推量〜古支配人の服
を半ぬ十あだり乃せの合羽着ておくまくる
帝〜一二丈を渡し〜走お嬢方へ走りの汐ぬ
〜〜〜〜出発く今日偶りてお由方へ乗り同勢の
家八と二人〜〜〜〜お由羽織〜〜合羽着
を〜〜り元〜〜〜〜八様の時や乗りうん茂兵衛八
山方のお紋ゴと途中まく親ひ〜〜〜〜

八ツ半り元迎の拵ぬ紋笠お阿ゴ方の持ぬ
るまで開〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
梅のお由と縁責業に藩の茂兵衛ゴの場の拵
るあや〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
引ずり移ぶ茂〜サア〜〜〜〜〜〜〜〜
帝〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
ゆる立流の侍ぶ〜〜〜〜〜〜〜〜〜

此方へ出でんと待ち侍る家来 其奴と近づきまうすかと
変りのうきまく かどろく 蔵之丞 さて 宣長 幸田の
次郎 こなたへ入りくと 出迎の
弟 蔵之丞が家来 内ようまく 蔵之丞が 彼侍よ 会釈すまぶ
幸田の次郎も 打うなづき 麓 和ゝで 春の 姉
引き 縄 長 盛 逆 三人 二人 長 ひ 長 き
此の二人も 暑 所のひづゝ 縄 ま ま 指く 苛 ぶ ま の
七年ののひも 後悔 ま ま 知 ま ま

第二十齣

再説 幸田の近常は 於由が 富 屋しき 通 ま ま 蔵之丞
於由 弟 は ものく 貢 ま に 行く 不 ま の 来 と 同
ま ま 波 家 は 悪漢 ま 蔵 庭 の 樹 ま ま ま ま 蔵之丞
に ま ゝ ゝ ま は 我 才 ま 今 ま 悪 は 成 ま 捕 ま ま 君
重 忠 の 山下 知 ま く ま 陰 実 ある 白 ま ま ま 又 其
方 が 捕 ゝ ま は 丹 近 郎 と の ま の に 疑 ま と ま る 不 忠 の ま て
代 松 ま ま と ま る の に 仕 り 仕 の 田 ま に 居 ま く ま る や 宣 ま く

[illegible]細ありて月運しがたき分なれども其義は何ぞ彩
[illegible]私ども既に四無あるものゆゑ[illegible]
[illegible]ん世の方の身に捕へ[illegible]被奴が悪るく人間の事[illegible]だと問ふ
[illegible]蔵[illegible]の一寸をもうしけるべき由妹者いかを更
[illegible]今入り[illegible]り[illegible]丹左衛門も義[illegible]イ[illegible]く五四郎が生[illegible]計よ
[illegible]る組へ近常が供人九三四人姫の外より[illegible]
[illegible]れる風情は本田の近郎[illegible]より吸いまくみ
[illegible]四郎ノ思ハ[illegible]引波[illegible]室屋[illegible]つ[illegible]と[illegible]ふ[illegible]り[illegible]

[illegible]先に[illegible]と[illegible]ぎまうと[illegible]トキニ蔵[illegible]
[illegible]義八[illegible]れ[illegible]ぐ[illegible]
[illegible]イヤ[illegible]ともかくも山[illegible]を[illegible]
[illegible]女主の住居の[illegible]長[illegible]さ[illegible]ぐわく迷[illegible]
[illegible]このて[illegible]他人中でしづ[illegible]ものぐ[illegible]
[illegible]退き[illegible]の内縁の者の[illegible]
[illegible]皆[illegible]
[illegible]より[illegible]吉左衛門の方へ[illegible]

茂の
彼も新しの一件ハ[illegible]く[illegible]く[illegible]く[illegible]く[illegible]く[illegible]く[illegible]
の書ようく又く他家中に[illegible]子に[illegible]りその家彼城の[illegible]ふ
義と[illegible]し丹波殿どのそ[illegible]ハ例の[illegible]ぐらゝ[illegible]
ぐりまゐせん[illegible]迫りや[illegible]沢[illegible]殿が[illegible]ぐ[illegible]事のうくゝり
その母[illegible]兵他[illegible]小[illegible]る丹波殿よてありけるゝ六
殿成[illegible]ぐ新[illegible]ゝ[illegible]ぐ[illegible]ぐ同級のゝ[illegible]
の[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ

なるべきまでこそ実義とは人をばけまりてそまとこと
に丹波国ぶのへ見給ふよりいとこと義も大そこそばたまりこる
柏子殿久しくと相正しく、迎へ万事のみきを殿このうへ
とりふ何変も茂へイイエ毎度出屋敷さるの出来と中別して
出ひらきてこそまる揺沢さるうり美君より氏柏子出来
ぶ百分一みもこそねれそまにつきまりても生を遊く
出彩遊さるのまこと〳〵内と作ゆまりまとこと君さる
つも出屋体の女中に出りまりけまりこと〳〵おぶり

きまりそ五財好月いこと〳〵柏子おりとまりねこと出来に柏
きーぶ後くきけばその女中お種を妻きいさまこくそまを
つきこそでいづもこそ縁ばこまりまで出来こそれその出彩来
もまこさこーくこびけこまこと出来こまもいろく
知殺つけきりくおりきまこびいと今のつくこびりかトいこまく
迎常面紙来の 迎へこまこ
浸とそも左柏子義ハ変こそく種実いこまりまこびこ何の十六年
も昔のこと出ようけもいさまね義とはこそいこびこ出まそこまも

ふくねも先情の今さら思ひ出らるるく何所ゆかるる事ゆ
うと案ずれば新よ頭ふるてがさ手ぶく武家の言地つるく迫へイヤ
十二歳名乗れ二の部が見えくねも実まのて義知をもちひ絵空い
ふまれ同級の好男だうでるくいまご榛沢氏よ家縁の子息
ふまれ名不義一生者不孝ゆり彼人の先祖へも不孝ゆり
と思ひにふるくいふるもけこの通常ふ母妻の復ふう出生
の小児も二人までふるこるまぶふるぶるもよ妻ぶ新くゆ
ふうふるにふるぶね義ふまぶ推くふる生ヨト見ふう家

丹波ハ家ハこまるさうさ元義名乗れとのひ通常名くの名ふ
うふうめくお蛙よふるまくふ一ゆりさそ義名乗れるの
ふと蛙くお田お蛙よ実義ヤレ〳〵両人ぶくきまを浦ぶ一さ
ふうのう由ふんよまアぶふまるふふ知ぶあまへさんのお組
をんふるまでハどんゆのふ若ふ方をいふ一まふ蜂ふう
敵にゆの一ふ四くふ私のふふくあまへさんぶどうふまるふと
いふとゆ名懲一ふ四くふりまふ一ふんぶ義ふぶふふ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

さん〜ちんぢうきうきうき

七ッの徳ボウンリ由ヘ[illegible]にモウ[illegible]ごま茂へ[illegible]んごろ
今月八日ごろ[illegible]ト[illegible]ものごきあるそこく帰りもくこまた備
ものき米八[illegible]ぞやこうしく仇吉と[illegible]の[illegible]眼のの[illegible]
[illegible]く丹波[illegible]ともあ[illegible]口吉[illegible]ご山[illegible]八源名の
[illegible]のこ[illegible]ぞ仇吉ごあに八幡の社内ごてうらせ
さま人[illegible]く[illegible]ようけ其[illegible]の[illegible]眼[illegible]
今雪[illegible]の[illegible]天[illegible]八[illegible]る仇吉ご[illegible]を[illegible]
く[illegible]ごもの日[illegible]ども最[illegible]ご人[illegible]

[illegible]ト[illegible]ぐ[illegible]米八[illegible]ト[illegible]ぐ[illegible]
[illegible]る者[illegible]ごこれ[illegible]ごろく米八ごもりの[illegible]
[illegible]八[illegible]ん八[illegible]ん[illegible]
[illegible]ごこ[illegible]ごう今[illegible]中で[illegible]の
[illegible]コレ米八マア[illegible]ぞ[illegible]
[illegible]傾城水滸[illegible]や女八賢[illegible]が流[illegible]ても女の[illegible]
[illegible]ごこ[illegible]ごもかくも[illegible]の
[illegible]ゆりマア[illegible]八[illegible]ごりのと[illegible]ごろと

いろ〳〵ゝうど見世屋の[illegible]や[illegible]こと今まで
[illegible]丹波紙大事におもつて連歌者のぶ
[illegible]者の[illegible]や[illegible]この茂兵に任せて今
[illegible]とも[illegible]流よりあの新の[illegible]仕方ハ
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

そろ〳〵屋〳〵剛ちく外類を

梅おとこの艶奥 玉兎辰巳園 狂訓亭作 國直画

全部六冊

紫雲市の時代後くに出兎の伊ど達帝イ

春色梅児誉美巻の拾弐